

鹿児島生協病院と地域をつなぐ広報誌、レインボー。

Issue  
36

# rainbow

鹿児島生協病院の新院長に  
想いを訊いてみました



## 鹿児島生協病院の新院長に想いを訊いてみました

今回のrainbowは、この春から新たに鹿児島生協病院院長に就任した山下義仁院長にインタビュー、想いを訊いてみました。「先生、鹿児島生協病院の“これから”、どんな病院にしていきたいですか？」



## “安心して受診できる身近な病院” としての期待に応え続けていきます

山下義仁 院長 インタビュー

——この春から鹿児島生協病院の院長に就任されての想いをお伺いできたらと思います。まずは先生の自己紹介をお願いします。

山下 生粋の鹿児島県人で、1987年に鹿児島大学医学部を卒業し入職しました。内科、呼吸器を中心に、急性期疾患から慢性呼吸不全、じん肺、アスベスト関連疾患までを対象に診療しています。2026年3月までは霧島市の国分生協病院で院長を務めていました。この春から18年ぶりに鹿児島生協病院に着任し、院長としてまた新たなスタートを切ったところです。

——18年ぶりの鹿児島生協病院はどのような印象ですか？

山下 先日、全体朝礼であいさつをする機会がありましたが、改めて職員の多さに驚きました。職員が多ければ多いほど、部門間での連携、特に顔の見える関係づくりが重要になりますので、私も色々なところに顔を出しながら積極的に声掛けやコミュニケーションを取って働きたいと思っています。

——鹿児島生協病院でのお仕事はどうですか？

山下 入院主治医、気管支内視鏡検査、救急外来に入ったりと、おかげさまで忙しい毎日です。

——さっそく様々な医療現場で診療されているんですね。

山下 院長の役割を果たすためには、むしろ一医師として、できる限り医療現場の前線に立ち続けることが大事なことではないかと思います。患者さんがどういうことに困っているのか、何を病院に期待しているのか、現場の職員がどういう想いで働いているのか……そういった、現場でしかわからない空気や熱量を肌で感じるのが、院長として病院のビジョンを考えることにつながると信じています。忙しいですけど、日々やりがいに溢れていますよ。

——そんな忙しい日々の診療で一番心がけていることはなんですか？

山下 まず、患者さんの訴えを丁寧に聴くことです。それに応えつつ、患者さんにとってわかりやすく、大事なメッセージをしっかりと伝えるように心がけています。

——難しい専門用語も多いからこそ、日常生活で気をつけていただきたいことは、わかりやすい言葉で届けたいですね。先生といえば、まさにエネルギッシュなイメージですが、元気の源はなんですか？

山下 限界を設けないことですね。例えば60歳になってからマラソンを走るようになりました。おかげさまで先日の鹿児島マラソンでは人助けもできました。

——テレビでも取り上げられていましたね。救命できて本当によかったです。

——地域に期待されている鹿児島生協病院の役割について伺いたいです。

山下 私たちの存在意義は、地域の人々から“最初に相談したい身近な病院”として存在することだと思っています。今は高次医療機関の受診には紹介状が必要であり、入院すればベッドの差額料が必要となるのが一般的ですが、鹿児島生協病院にはその心配がありません。そして内科も外科も小児科も、さらには整形外科、眼科、泌尿器科、婦人科もそろっている病院です。“まず受診してみよう”と思える、“安心して受診できる身近な病院”として、組合員さんをはじめ、地域の方々に期待されていると思います。

——院長として、“これから”の鹿児島生協病院をどのように描いていますか？

山下 鹿児島生協病院は、鹿児島医療生活協同組合のセンター病院として、医師をはじめとした人材育成と、医療レベルを維持し高めることを通じて地域に還元していくこと、人権を守る医療機関、平和・民主主義の砦として存在すること。これは昔も、今も、これからも変わらない役割だと思っています。そして、目前にある課題は新築移転です。病院職員、地域の組合員さんとビジョンを共有し、意見を出し合いながら、みんなで協力して新しい病院を作りたいですね。

やました・よしひと 鹿児島生協病院院長。鹿児島県民主医療機関連合会会長。呼吸器内科医。1987年鹿児島大学卒。2026年3月まで国分生協病院院長、4月より現職。



# この春、新たに着任した4名の医師をご紹介します

べっぴ・ひろとし

## 別府宏俊 医師（消化器内科）

### 出身地

鹿児島県

### 趣味・休日の過ごし方

地元、平川動物園で見学することができる〈ビントロング〉というネコ科の動物が癒やします。読書も好きです。

### 意気込み・メッセージ

他院で研修を積んでパワーアップして、3年ぶりに鹿児島生協病院に戻ってきました！月曜日に消化器外来、それ以外は内視鏡などの消化器処置、入院担当をしています。身長が190cmあるので、遠くからでも目立ちます（笑）。地域の皆様のために精一杯頑張ります。

かわもと・まゆみ

## 川本真由美 医師（消化器内科）

福岡県

鹿児島に引っ越してきたばかりということもあり、最近では自宅周囲を散歩しています。普段は好きな漫画や小説を読みながらのんびりしたり、趣味のランベットの練習をしたりして過ごしています。

胃カメラや大腸カメラなど、苦痛を感じやすい検査を、できるだけ苦痛を少なく挿入するよう心がけています。疾患の早期発見につなげ、地域のみなさんの健康に貢献できるよう心がけていきます。

なかお・ひろのぶ

## 中尾大伸 医師（外科）

### 出身地

鹿児島県

### 趣味・休日の過ごし方

まだ鹿児島に戻ってきたばかりなので、開拓中です。

### 意気込み・メッセージ

高校卒業後は県外の大学へ進学し、医師20年目となる今年、25年ぶりに故郷に帰ってきました。桜島を見て懐かしさを覚えつつも、当時とはまるで違うような場所もあり、新鮮な気持ちで過ごしています。これまでの消化器外科医としての経験を活かし、不安なお気持ちの患者様やご家族の皆様に少しでも安心していただけるように心がけていきたいです。

いこま・しんいちろう

## 生駒真一郎 医師（総合内科）

鹿児島県

旅行で気分転換をすることです。

これまで鹿児島市、指宿市を中心に総合診療科、外科を中心に従事してきました。

何事にも誠心誠意、頑張ろうと思っています。

谷山近辺に関しては無知なことが多く、おいしいお店や、おすすめのスポットがあれば教えていただきたいです。よろしくお願いいたします。

## 総合病院 鹿児島生協病院

●組合員の出資・運営・利用により経営されている鹿児島医療生活協同組合の中心的病院です●鹿児島市の谷山地域に位置し、鹿児島市南部はもとより、広く南薩方面の地域医療を担っています

## 理念〈人権を尊重し、安全で信頼される医療を地域の人々とともにすすめます〉



●病床数299床 | HCU 8床 / 急性期一般病棟211床 / 回復期リハビリ病棟40床 / 地域包括ケア病棟40床

●診療標榜科は20科、救急指定医療機関として夜間や日曜日・祝日も24時間体制を取り、救急車搬入件数は年間2,500件を超えます。

●すべての人々が安心して医療を受けられるよう、全病室で差額ベッド代はいただいません。

●健診事業や、HPH（健康増進活動拠点病院）として、地域での医療講演や医療生協の班会などでの啓蒙を含めた保健予防活動にも、組合員や地域住民と協働しながら取り組んでいます。

●生活困難な方が経済的理由によって必要な医療を受ける機会が制限されることのないよう、無料低額診療事業を行っています。地域連携室では、無料低額診療事業のほか、医療・介護相談窓口として専任の社会福祉士が対応いたします。

●親切で安全かつ質の高い医療・福祉を提供し、地域医療に深く貢献することを目指しています。

\*本誌掲載の情報は2026年5月時点のものです。  
\*最新の情報はホームページをご覧ください。  
<http://kaseikyohp.jp>



rainbow

2026年5月15日発行  
発行 | 総合病院 鹿児島生協病院  
写真・編集・デザイン | 鹿児島生協病院広報委員会  
〒891-0141 鹿児島県鹿児島市谷山中央5-20-10  
代表TEL 099-267-1455